

## 第81回麻布獣医学会 一般演題13

**産業動物臨床基礎実習の実施3年目の評価と問題点**

武藤 眞, 入来 常德, 恩田 賢, 金子 一幸  
伊東 正吾, 新井佐知子, 押田 敏雄  
川上 静夫, 若尾 義人, 和田 恭則

麻布大学獣医学部獣医学科

**[目的]**

平成15年から始まった獣医学科1年次を対象とする本実習(前期1単位)の目的は、動物病院に搬入された産業動物を管理することによって、臨床に必要な基礎的事項を体験的に習得させることにある。今年も実習終了時に産業動物に関する学生の認識等を把握するために、3回目のアンケート調査を実施した。

**[方法]**

昨年同様に、週1回の講義12回(1時間)と前半、後半に分けた実習(2時間)を実施した(開始年度はほとんど講義のみ)。さらに19班に分けた朝・夕の実習(実技;5日間,2時間/日)を産業動物繋留室で行い、実習最終日に報告会を開催した。

**[結果]**

今年度の履修者は95名(全体の62%)で、単位認定者は85名であった。履修者の出身地は関東(67%)が最も多く、次に九州・沖縄(11%)、中国(8%)であった。卒業後の就職先は小動物臨床(49%)と未定者(23%)、産業動物(11%)を希望

していたが、他の分野はいずれも10%未満であった。さらに履修者の80%以上は、これまで牛、豚、馬に接した経験がほとんどなかった。講義全体の評価は昨年度よりも18%改善され、実習の満足度も昨年同様が高かった(91%)。講義科目では牛、豚、一般検査、乳牛、生殖器の順に評価が高かった。講義実習では牛、生殖器、乳牛、馬、豚の順に評価が高かった。一方、実技(5日間)では特に搾乳(41%)、哺乳(25%)、経口投与(13%)に関心が高かった。実際に動物に触れた印象としては、生き物であるという実感(27%)、動物の大きさ・温かみ(10%)、楽しく新鮮で良い経験(15%)、可愛い・大人しい・繊細である(14%)ことを実感していた。その結果、臨床基礎実習全体では、良かったとする評価は昨年同様に高く(90%)、さらに産業動物臨床の見方について変わったとする意見も同様に高かった。また、講義や実技において改善すべきとの指摘は前年度の1/2に減少したが、同時に“特になし”との回答が約1/4であったことが印象的であった。